

2018年度 佐久長聖高校 自己評価（中間評価）

学校教育方針	中・長期的目標	今年度の重点目標
1. 礼節を重んじ、忍耐強く、誠実な人材の育成を図る。 2. 一人ひとりの個性を尊重し、授業・クラブ活動・館(寮)生活を通して、豊かな教養、感性、心身の健康を身につける。	1. 積極的、自主的な態度を養う。 2. 希望進路の実現をめざす。 3. 教職員の指導力を高める。 4. 校外から理解・支援される教育活動を展開する。	1. 生徒の様々な意欲をより高めることのできる学校づくり ・学習・生活・課外活動・館などすべての分野で、指導方法を模索し、質を高める。 ・ICTを導入し、活用を広げていく。 ・生徒との前向きな対話のある生活指導・学級運営を行う。 2. 生徒の安全と安心の確保

評 価	A	十分
	B	概ね十分
	C	やや不十分
	D	不十分
	E	評価できない

分野	評価項目	評価の観点	評価	成果(具体的に何ができたか)	今後やるべきこと、実施に当たっての問題点
学 習 指 導	授業内容の充実	1 授業評価を適宜行い、その内容を踏まえて授業の方法を工夫・改善して、生徒の学ぶ意欲を喚起しているか。	B	生徒の記述答案を見ることで授業の反省ができる。／考査ごとにアンケートをとり授業の見直しに活かした。／積極的に授業参加できるように挙手の仕方を工夫した。	進度確保のため講義調になりがち。／入試に向けた現状把握。／問題演習の行い方をより改善したい。
	教科指導力の向上	2 研究授業のほかに教員相互の授業参観や相互批評をしているか。アクティブラーニングの手法を試みているか。	C	生徒同士の教え合いの場を増やした。／ロイノートを活用している先生の授業見学をして研鑽を積んだ。／授業クラスの担任に授業を見てもらい意見をもらった。	関心のない先生がまだまだいる。／他教科の同じクラスを持っている先生の授業参観を行う。／
		3 各種の模試・検定などの客観的データを教科会や各自で分析し、生徒の学力に応じた授業を行っているか。	C	模試のデータを活用してドリルや補習内容に用いた。／授業では模試結果からできていない部分を重点的に行った。／クラスごとに課題を変え、自由提出とすることで意欲の向上が見られた。	教科会での意見交換の場をもっと増やす。／土曜日の扱いをもっと工夫すべき。／成績上位者に対する指導を研究したい。
	学習習慣の確立と自主的な学びへの導き	4 (学級担任として)生徒の学習状況・学習時間を把握し、面接によって個々に即した適切な助言をしているか。	C	各学期に1回以上は生徒との面談をして情報根幹をしている。／Classiの学習記録を毎日入力させ点検している。／朝・昼休みは常に生徒と話していた。	結果につながる助言ができたとは言い難い。／放課後などもっと生徒とコミュニケーションをとれる時間が欲しい。
		5 (教科担当として)学力や時期に応じて質的・量的に適切な課題を出して、日々の学習や計画的学習を促しているか。	B	クラスに応じて休日や授業のない日に復習になるものを課した。／考査に点が取れ楽しいと思えるような課題を意識した。／模試前にその対策課題の配布。	進路保障の観点から学力向上には全力でありたい。／先を見据えた計画的学習を促す。
		6 生徒のタブレットPC利用を促すような学びの課題や機会を、工夫して提供しているか。	C	連絡事項・授業・課題直あらゆることをタブレットPCを用いて取り組めるようにしている。／ロイノートを効果的に使用できた。／Classiで試験前に確認事項を配布した。	ネット上の情報に対する判断力の育成が必要。／タブレットPCの修理に時間がかかりすぎた。／
進路指導	希望進路の実現	7 学級担任・教科担当として3年間を見通した指導をしているか。学年会・教科会がそのために機能しているか。	B	学年団で先を見越した指導をしているので教職員の中で共通理解が図れている。／学年・類ごとに現状の学力を踏まえ教材を補充している。	ポートフォリオへの対応はまだ不十分。／学年会や教科会が連絡会になってしまう。／推薦入試利用者が増加しており面接指導の在り方の再考。
新しい時代を展望できる進路指導	8 社会への視野を広げ、自分の人生の目標を考える機会としてのキャリア教育を、計画し、実施しているか。	B	学校全体としてキャリア教育が浸透しつつある。／クエストや大学見学など学年としてもキャリア教育を意識している。／キャリア教育をきっかけに進路を考える生徒が多い。	生徒自身が自分の人生を考えることの難しさを感じている。／授業やLHRをつぶしすぎないでできないか。	
生 活 指 導	自律的生活の育成	9 服装・挨拶など生徒の自律的取り組みを促しているか。モラルや思いやりにつながる、心の指導をしているか。	B	カジュアルデーとその翌日の制服への切り替えがよくなってきている。／清掃指導で生徒自身が汚れを見つけて清掃するようになった。／	服装や化粧などの範囲まで注意すればよいのかあまい。／個を通ず場面と社会的にふるまう場面のバランス。／
	生徒相談といじめの発見・対処	10 担任・学年・部活顧問・館職員・生徒指導係等が連携を取りながら、適切に生徒相談に当たっているか。	B	部活顧問として担任と常に情報交換をした。／副任だがほぼ毎日教室へ行き積極的に生徒に声がけをした。／生徒と面談の前に先生方から情報をもらってから臨んだ。	情報の共有やチームとしての対応という面で課題がある。／寮から担任への情報提供が以前より不足している。／
		11 現在の「いじめ」の定義(注)に基づいていじめを認知し、職員間で情報を共有して適切に対応しているか。	B	授業やその他の時間で生徒を観察し他の先生と情報共有ができた。／授業中に友人をバカにするような発言があったとき諭すことで類する発言はなくなった。／	生徒個々の変化を敏感に察知する。／こちらが気を付けてもいじめの発見は難しく日常生活アンケートが役立つ。
	安心・安全を守る指導、安全を考えさせる指導	12 校内の安全点検や日常の目配りを重視し、事故や危険を防止できているか。	C	毎日校内を回り戸締りや机の整頓をするとクラスの机も揃うようになった。／学年で移動教室の際に見回りを行った。／	外部からの侵入に対するセキュリティー強化。／2号館やアリーナなど教師の目が行き届きにくい場所が多い。／必要な場所への防犯カメラの設置。
13 校外での交通安全や防犯(インターネットによるトラブルの回避も含む)についての指導をしているか。		C	平日頃から社会生活上のモラルについて話をしている。／適宜ニュース等を紹介し危険性を伝えた。授業内でも関連した内容で生きていく上で大切なことなどを伝えた。	生徒の想像力を鍛える必要がある。／インターネットは禁止ではなく使う中での指導をもっと行う。／当事者意識を高める指導。	
開かれた学校	開かれた学校づくり	14 保護者や地域の方の意見・要望をくみとり、必要なことには、すばやく、的確に対応しているか。	C	保護者とのコミュニケーションを密にとるよう意識している。／メールなどで相談を受けやすい環境を作った。／Classiで保護者の求める情報などをできる限り発信した。	生徒の校外での言動が目目されることをもっと認識させる。／多忙の中時間がかかってしまうことがあった。
		15 電子媒体や紙媒体を通して、各種の情報を生徒・保護者や一般に向けて、定期的に提供しているか。	B	校外でのイベント・奨学金情報・模試結果などもClassiを通じて発信できた。／学年で当番を決めて生徒の様子などをClassiで保護者に発信できた。／Classiで写真付きで学校の様子を伝えられた。	HPIに同窓生からの情報をもっと掲載できるとよい。／写真をもっと配信したい。／クラス間での差を少なくする。
		16 地域の方や校外の団体等と交流できる機会を、生徒に提供しているか。学校として交流に寄与しているか。	C	県議会での意見交換会・佐久レオクラブ・台湾からの留学生との交流など多くの機会を生徒に紹介した。／部活単位で地域の行事に参加した。	事後指導の充実。／文化祭をより充実させて地元の方にもっと来校してもらおう。

(注)一定の人的関係がある生徒の中で、一方が他方に心理的・物理的な影響を与える行為をして、対象となった生徒が心身の苦痛を感じていること。一時的なものや謝罪して解決したものも、「いじめであった」と考える。